

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|--|
| 事業名 | 大学・各種学校との志賀高原連携事業「学生による志賀高原観光振興プロジェクト」 |
| 事業主体 (連絡先) | 志賀高原観光協会 山ノ内町大字平穏 7148 電話 0269-34-2404 e-mail:info@shigakogen.gr.jp |
| 事業区分 | (6)ア 特色ある観光地づくり (1) 地域協働の推進に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 3,600,680円 (うち支援金: 1,702,000円) |

事業内容

志賀高原の遊休店舗を活用した、店舗(カフェ・土産物屋等)運営の場を設定し、大学・専門学校等にその実践場所として提供する事で、将来の観光客及び観光人材の確保に加え、若者による志賀高原観光振興をすることをテーマとしています。

- 1、学生(学校)の公募
- 2、各種勉強会の実施
- 3、店舗営業・実践
- 4、観光振興事業としてチラシ、SNS等で情報発信



【事業の様子】

【目標・ねらい】

- ① 若者(学生)に対する志賀高原の知名度向上。
- ② 学生による自発的実践の実践。
- ③ 地域振興となる事業の策定。
- ④ SNS等を活用した各種広報活動。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 学生に志賀高原の事を各種研修、事業実践の中で知る・理解することができた。
- ② 実践と共に、自発的な活動ができた。
- ③ 短い営業期間ではあったが560名を超える来店があり、近隣事業所より、お客様への案内利用、情報提供などの点で高評価を頂いた。
- ④ SNSでの発信の他、各種TV・新聞の取材があり、電波媒体を利用した事業告知、宣伝が達成できた。
- ⑤ 昨年以上の来客、マスコミ取材を得て、学生による志賀高原の観光振興、認知向上が図れた。

※自己評価【A】

【理由】当初予定していた事業はほぼ予定通り完了する事ができた。地域の関係者の理解と利用協力が図れた。また、認知向上により、各種マスコミ取材も増加、目的である観光振興にもつながった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

志賀高原を実践教育の場として観光人材の確保を念頭に、夏季における志賀高原の観光振興、ニーズ、来客の増売を目的に本年度の事業実績を踏まえ、事業の継続を検討をしたい。また、事業内容については更に細部改良を施し、より質・実共に充実した事業継続を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある。